

調査検討報告書



平成25年8月

(仮称) 津沢夜高会館調査検討委員会

はじめに

毎年、6月第1金・土曜日に開催される「津沢夜高あんどん祭り」については、観光客が年々増加しており、勇壮で盛大な祭りとして県内外の観光客に注目されている。近年、「本祭り」の他にも「津沢夜高田楽行燈点灯式」、「津沢夜高あんどん祭り前夜祭」が開催され、市内外に祭りの情報が発信されている。また、「津沢夜高あんどん祭り」を更に盛り立てる伝統芸能として、夜高太鼓・武者絵・夜高踊り等も保存継承されており、津沢地区民全体での取り組みが行われている。

平成23年10月、小矢部三大祭り保存・伝承委員会より「小矢部市三大祭り保存・伝承計画書」が市長に提言された。その中で「津沢夜高あんどん祭り」については、祭りの保存・伝承や年間を通した祭りのPRができない等様々な課題があり、それらを解決するためには、夜高会館（仮称）の建設と市無形文化財の指定等により、「津沢夜高あんどん祭り」の保存・伝承等の進展を図るべきとの内容であった。

そのため、平成24年12月26日「（仮称）津沢夜高会館調査検討委員会」を設置し、（仮称）津沢夜高会館の役割・効果・機能・運営等について、調査検討を行った。

1 現状と課題

(1) 現 状

現在、「津沢夜高あんどん祭り」は、各町内会により全21基による練り回しが行われ、夜高太鼓、夜高踊り、武者絵等も夜高行燈祭りを構成する芸能として加わり、勇壮、盛大で総合的なお祭りとなってきた。

平成17年度観光客入込数28,000人であったが平成21年度よりめざましく増加している。これは、津沢夜高行燈保存会による祭り運営の改善や小矢部市商工会、小矢部市観光協会等からの情報発信による影響が大きいと考えられる。

近年は、大手旅行会社が「津沢夜高あんどん祭り」を全国に紹介し、金沢駅からのツアーが実施される等、北陸地方のお祭りの一つとして知られてきた。

津沢夜高あんどん祭り 観光客入込数（単位：人）

年 度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
観光客入込数	28,000	28,300	28,800	25,000	30,000	35,000	37,000	39,000	41,000

(2) 課 題

津沢地区の世帯数・人口は、小矢部市全体の中でも減少している状況となっている。津沢地区の活性化づくりのため、早急に賑わい創出等の施策が必要となっている。

その中、津沢地区各町内会は、6月の夜高あんどん祭りに向け、早いところは2月初めより夜高行燈製作を始めるとともに、祭り後継者育成に取り組んでいるが、指導者不足や夜高太鼓・踊り練習場所の制限もあるため、現状のままでは「津沢夜高あんどん祭り」の継続的な開催に不安を感じている。

以下、課題を整理する。

(夜高行燈全般)

- ・「津沢夜高あんどん祭り」の通年体験ができないため、情報発信が不十分となっている。
- ・過去の夜高行燈関係資料を集めても展示保存する場所がないため、収集整理されていない。
- ・津沢コミュニティプラザ及び商工会津沢支所の会議室活用が著しく、津沢地区各町内会集会所も夜高行燈製作場所となっており、夜高行燈関係者打合せ場所の確保が難しい状況となっている。
- ・夜高行燈製作指導者及び後継者が少なくなっている。
- ・夜高行燈製作方法や歌い継がれている夜高節等は、津沢地区各町内会毎の指導者により口伝えで伝承されており、指導者の記憶だけによるため保存継承されにくい。
- ・地区や祭りの伝統歴史を子供達に言葉でしか伝えられない。
- ・祭り、イベントに必要な道具等を市津沢倉庫に保管しているが、近年、他イベント資材が加わり、保管場所も縮小されてきた。そのため、貸しガレージや倉庫を借りて保管している。

(夜高イベント)

- ・夜高行燈点灯式やちびっ子夜高太鼓コンテストが、天候にかかわらず開催できる場所がない。また、簡易ステージでの開催で集客数も小さい。
- ・夜高イベント（本祭り含む）を開催する度、観覧場所、音響、照明、電源、トイレ、ゴミステーション等仮設対応しなければならず、設置撤去費用が大きい。

(夜高太鼓)

- ・夜高太鼓について、大音発生のため練習時間と練習場所が制限されている。また、子供達による統一練習ができない。

(夜高踊り)

- ・夜高踊り練習場所として、天候にかかわらず練習できる広い場所が確保できない。

(武者絵)

- ・武者絵について、指導しながら作成し常設展示できる場所がない。

(夜高グッズ)

- ・夜高行燈グッズの通年製作販売できる場所が少ない。

以上のことにより、津沢地区では、年間を通じた観光交流人口の増大を図り、地域の活性化を創出するとともに、地区全体で取り組んでいる夜高行燈祭りの核となり、祭りの保存継承等、課題に対応できる施設が求められている。

津沢地区と市全体の世帯・人口の推移

(単位：世帯、戸、人口、人 資料：国勢調査)

地区名	面積 km ²	平成2年		平成7年		平成12年		平成17年		平成22年	
		世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口
津 沢	8.69	992	3,869	1,075	3,814	998	3,541	1,025	3,488	986	3,292
		100%	100%	108%	99%	101%	92%	103%	90%	99%	85%
市全体	134.11	8,613	36,374	9,111	35,785	9,329	34,625	9,535	33,533	9,581	32,067
		100%	100%	106%	98%	108%	95%	111%	92%	111%	88%

2 (仮称)津沢夜高会館のあり方

・目指すべき施設像(コンセプト)

(1) 過去

「津沢夜高あんどん祭り」の歴史は、1660年(万治3年)津沢町立ての頃に遡ると考えられます。

伊勢神宮よりの御分霊の行列が俱利伽羅峠をさしかかったとき、日が暮れてしまいました。この知らせを飛脚で知った村民が、それぞれ手に道しるべの行燈を持ち、この行列を全村挙げて奉迎したのが起源と伝えられています。

また、田植え(農繁期)も終わって、植え付けの完了を祝う報恩と慰安と虫除けの行事を恒例とする田のまつりは、広く当地方の永い民俗伝統であり、夜高行燈は田祭りの行事として、当砺波地方の方言「やすんごと」の日に、五穀豊穰・天下泰平・豊年満作を神社に参詣祈願し、全町域を挙げて盛賑を呈するというおめでたい伝習が、その由来であるといわれます。

(2) 現在

「津沢夜高あんどん祭り」は、大行燈7基、中行燈7基、小行燈7基の計21基による津沢地区練り回し、大行燈どうしの激しい「ぶつかり合い」が行われ、夜高太鼓、夜高踊り、武者絵等も加わり、勇壮、盛大で総合的なお祭りとなってきた。

一方で、少子高齢化により、指導者及び後継者が不足してきていること、また、過去からの祭りの歴史的資料等が保存整理されておらず、指導者の経験のみによる後継者育成だけでは限界があるため、祭り伝承の危機と感じている関係者も多い。

また、紙と竹、木材と針金で造形し、着色される夜高行燈は、毎年、新たなテーマのもとに長期間を掛けて一から製作に取り組むことが必要であり、その準備には、関係者にとって大変な努力と根気、そして、経費を要するものとなっている。

しかしながら、その状況であっても、津沢地区住民にとって「津沢夜高あんどん祭り」は、欠かせない大事な年中行事であり郷土の愛着心向上に大きな役割を果たしている。

近年、「津沢夜高あんどん祭り」について、本祭りの2日間だけではなく、通年にわたり情報発信ができ、郷土愛着心の拠り所となる(仮称)津沢夜高会館の建設が、地区住民より強く求められている。

(3) 未来へ

津沢地区の未来を展望し、地域の活性化、「津沢夜高あんどん祭り」保存継承と情報発信を図り、小矢部市の新しい観光の拠点となる施設を目指す。

今までの「津沢夜高あんどん祭り」の歴史・伝統を調査、発見して後世に残すとともに、更なる活性化・発展を図るため、目指すべき施設像(コンセプト)を次のとおりとする。

祭りのイメージコンセプトとして「～歴史を踏まえ～未来を照らす光の躍動芸術」とし、施設のコンセプトとして次の3項目を基本(役割)とする。

- ・夜高あんどん祭りの保存継承
- ・地域の伝統歴史の情報発信
- ・新しい観光の拠点

次図参照

コンセプトの検討

過去

- 津沢地区の歴史
- 夜高あんどんの歴史
(田楽行灯から夜高あんどん)
- 田祭り「祈願」
(五穀豊穡・天下泰平)
- 伝承、保存

現在

- 津沢夜高あんどん祭り
(夜高あんどん、夜高太鼓、
夜高踊り、武者絵等)
- 勇壮、盛大
- 伝承、保存等課題
(後継者育成、
通年情報発信等)

未来へ

イメージコンセプト

～歴史を踏まえ～

未来を照らす

光の躍動芸術

施設のコンセプト

- 夜高あんどん祭り保存継承
- 地域の伝統歴史の情報発信
- 新しい観光の拠点

3 (仮称)津沢夜高会館の役割・効果について

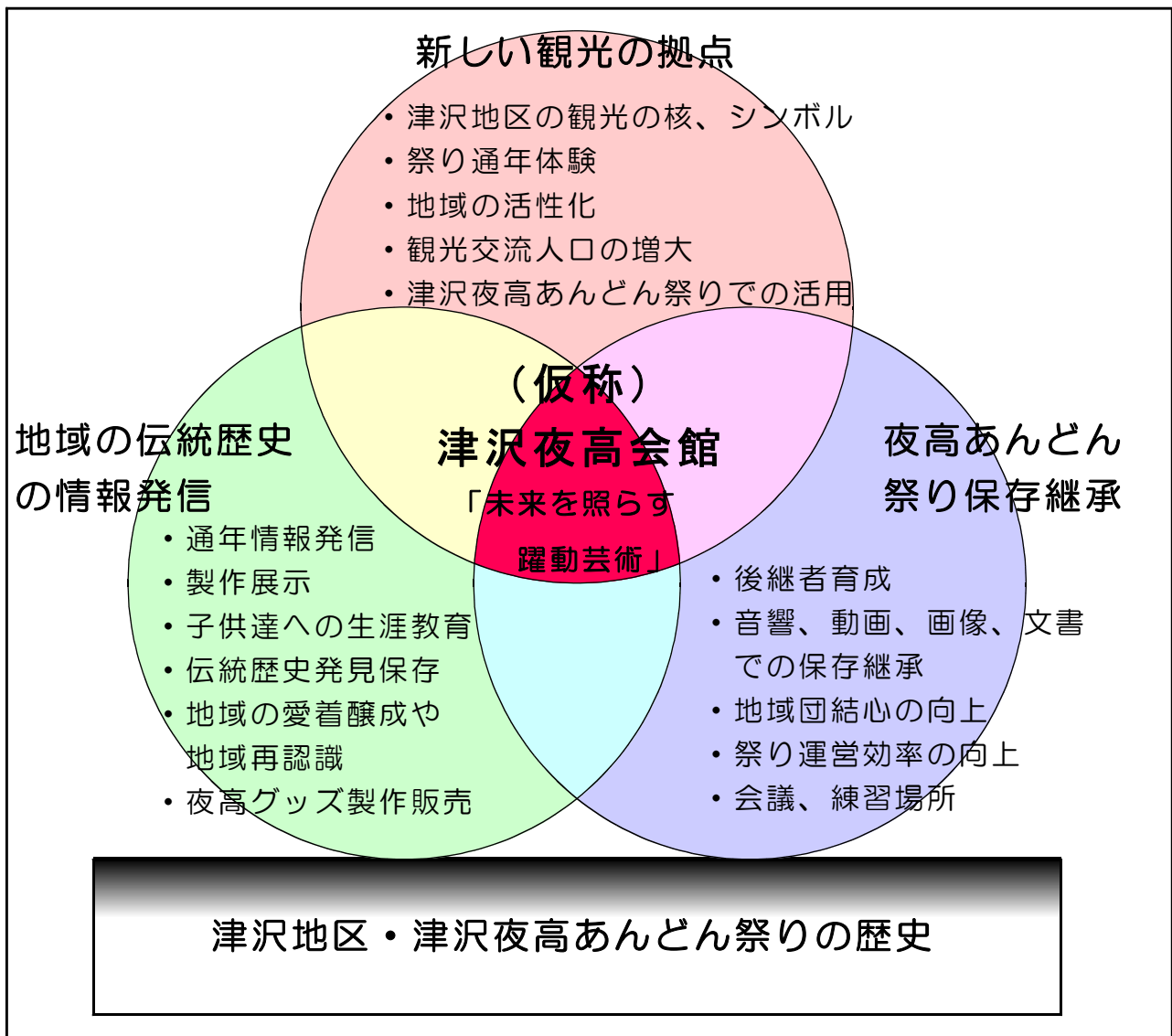
(1) 役割

(仮称)津沢夜高会館の果たすべき役割は、次の3つとする。

- ・夜高あんどん祭り保存継承
- ・地域の伝統歴史の情報発信
- ・新しい観光の拠点

(2) 効果

(仮称)津沢夜高会館の設置による効果は、その役割ごとに下図のように考えられる。



また、小矢部市の主な観光地・観光施設として、「倶利伽羅県定公園」「稲葉山・宮島峽県定公園」「道の駅メルヘンおやべ」「クロスランドおやべ」がある。平成27年度には国道8号沿いに「アウトレットモール」のオープンも控えており、集客地域は市内北部に集まっている。

一方、津沢地区は国道359号、国道471号の幹線道路が交差し、利用できるICも小矢部IC、小矢部東ICと砺波ICの他、平成26年度末には、南砺SICが供用開始される予定となっており、4つのICから概ね10分以内に到着することができる好立地であると考えられる。



津沢地区に当会館を立地することにより、市内北部に集中する観光客が市内南部に誘導されることから、小矢部市全体に観光交流人口と滞留時間の増大による大きな効果が広く期待できることになる。

4 (仮称)津沢夜高会館の機能・運営について

(1) 機能

(仮称)津沢夜高会館には、次の機能が必要と考えられる。

- ・夜高あんどん祭り体験（常設展示、特別展示、映像上映、音楽聴取、曳き回し体験、土産品販売等）
- ・夜高あんどん祭りの情報発信（歴史、規則、組織、インターネット情報発信等）
- ・夜高体験（行燈作り、夜高太鼓、夜高踊り、武者絵等）
- ・夜高イベント開催（固定ステージでの夜高太鼓コンテスト等）
- ・会議、練習の場（夜高太鼓、夜高踊り等）
- ・観光案内所（施設案内、市内観光案内等）
- ・祭り開催時、祭り運営施設（観覧場所、音響、照明、電源、倉庫等）
- ・トイレ、休憩施設、駐車場等

(2) 運営

- ・津沢夜高あんどん祭りの歴史や祭り運営等をよく理解している団体等が管理者として運営に携わることが望ましいと考える。

5 まとめ

本委員会は、平成24年12月から平成25年8月までに7回の会議、「津沢夜高あんどん祭り」や「夜高イベント」開催時においては4回の現地見学を行い、合わせて11回にわたり委員会を開催いたしました。

本委員会は、「津沢夜高あんどん祭り」について、夜高行燈製作現場へも伺い製作過程を見学し、紙と竹、木材と針金で造形される夜高行燈は、出来上がった夜高行燈の魅力だけでなく、その製作過程の段階も含め展示するにふさわしい「光の芸術」と感じました。

また、「津沢夜高あんどん祭り」に懸ける地区住民の情熱が「光の芸術」として躍動し、勇壮な「ぶつかり合い」によって、一瞬で壊れてしまう等、激しい動きと変化もこの祭りの大きな魅力です。

(仮称)津沢夜高会館の建設によって、「津沢夜高あんどん祭り」の歴史発見や保存展示が出来るようになり、歴史文化の伝承が一層図られるものと考えます。また、通年にわたり、全国からの観光客が「津沢夜高あんどん祭り」の魅力を体感できるようになり、より一層の観光人口の増大が期待されます。

この会館を建設する時期については、他の夜高行燈祭り開催地区(福野、出町、庄川)に先駆け、夜高あんどん祭りを通年体験できる施設として、早期に建設されることを本委員会一同強く要望し、報告のまとめといたします。

(仮称)津沢夜高会館調査検討委員会

(付属資料)

(仮称)津沢夜高会館調査検討委員会の経緯

開催日	開催場所	主な協議事項
平成24年12月26日	特別会議室	・ 設置要綱 ・ 委員紹介 ・ 委員長選任 ・ 「津沢夜高あんどん祭」の現状と検討課題 ・ 各委員からの意見
平成25年2月26日	砺波市出町子供歌 舞伎曳山会館 川の駅新湊	・ 施設の視察
平成25年5月2日	特別会議室	・ 視察内容について意見交換
平成25年5月11日	あんどん広場	・ 津沢夜高田楽行燈点灯式(自由参加)
平成25年5月16日	津沢消防署2階 和室	・ イメージコンセプトについて ・ 夜高会館の役割と効果等について ・ 夜高あんどん製作状況視察
平成25年6月6日	あんどん広場	・ 津沢夜高あんどん祭前夜祭(自由参加)
平成25年6月7日	あんどん広場	・ 津沢夜高あんどん祭(自由参加)
平成25年6月8日	あんどん広場	・ 津沢夜高あんどん祭(自由参加)
平成25年6月25日	特別会議室	・ イメージコンセプトについて ・ 夜高会館の役割と効果等について ・ 夜高会館の機能と運営等について
平成25年7月25日	特別会議室	・ イメージコンセプトについて ・ 夜高会館の役割と効果等について ・ 夜高会館の機能と運営等について ・ まとめについて
平成25年8月19日	市502会議室	・ まとめについて
平成25年8月29日	市長公室	・ 市長へ調査検討報告書の提出

(仮称)津沢夜高会館調査検討委員会名簿

氏名	役職・団体名等	会役職
中嶋 秀明	小矢部三大祭り保存伝承検討委員会 委員長	委員長
埴生 雅章	小矢部市芸術文化連盟 会長	副委員長
新明 政夫	小矢部三大祭り保存伝承検討委員会 副委員長	
牧野 潤	元小矢部市史編集室 編集担当	
川原 久俊	津沢夜高行燈保存会長・津沢地区自治振興会長	
辻 道夫	津沢夜高行燈保存会 副会長	
宮田 新三	津沢夜高行燈保存会 副会長	
高橋 幸雄	小矢部市自治会連合会長	
柴田紀久雄	津沢地区自治振興会 副会長	
府録 弘之	小矢部市商工会 副会長	
沼田 道代	小矢部市商工会 女性部長	
森谷 義一	小矢部市観光協会専務理事	
大沼 康子	おやべメルヘンガイド代表	

【事務局】

氏名	役職等	備考
川原 幸雄	小矢部市産業建設部長	
谷敷 秀次	小矢部市産業建設部次長	
川田 保則	小矢部市観光振興課長	
明石 雅之	小矢部市観光振興課主査	
船見 幸広	小矢部市観光振興課主査	
早助 昭	小矢部市観光振興課主任	
坂田 学	小矢部市観光振興課技師	

